

法面对策、盛土補強

道路法面や盛土箇所など、災害や第三者被害につながるおそれのある箇所について、異常の有無などを確認するための点検や補強工事などの対策を実施をしていきます。

法面对策の実施状況

■法枠工およびモルタル吹付けによる法面風化・侵食対策



国道16号 横須賀市水走

■モルタル吹付けによる法面風化・侵食対策



国道16号 横須賀市吉倉

横須賀地区トンネル改修

老朽化したトンネルを改修し、円滑かつ安全な交通を確保します。

横須賀市内の国道16号には、開通してから50年以上経過したトンネルが多数(16箇所中15箇所)存在し、老朽化が進行しているとともに内空が狭く、高さ制限を設定している状況です。

横須賀地区トンネル改修は、このようなトンネル群について、改修整備を行い交通の安全性の確保や円滑化を図るものです。

計画の概要

計画区間	横須賀市吉倉町1丁目～ 横須賀市追浜町1丁目
対象	トンネル 4箇所

令和8年度の事業

調査設計を推進します。



現況
至 横浜



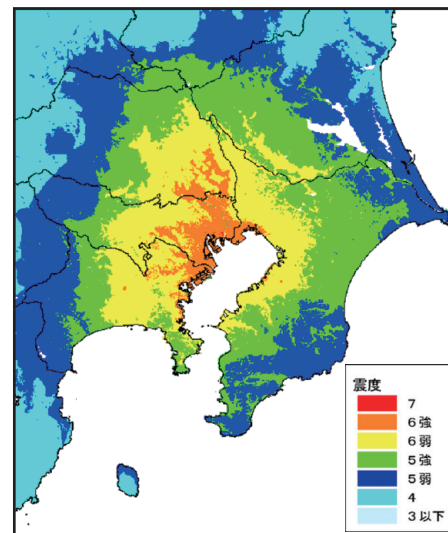
改修イメージ

全てのトンネルにおいて必要な幅員を確保し高さ制限を解除します。

道路の震災対策(道路啓開計画)

大規模地震等の想定される災害に対し、発生時に迅速な道路啓開(※)が可能となるよう、啓開の考え方や手順、事前に備えるべき事項等を定めた「道路啓開計画」を策定し、道路の震災対策を進めています。

首都直下地震における“八方向作戦”のうち、南方向を横浜国道事務所が担います。このため、道路管理者間及び実働部隊との連携強化、具体的な行動計画の作成、実働訓練による対応能力の向上等を図ります。



(八方向作戦)

・全国から派遣される応援部隊や緊急物資が迅速かつ円滑に防災拠点へ進入するため、全国各方面からアクセス可能となるよう都心を中心に放射方向の道路を活用し八方向(八方位)毎に高速道路、国道、都道の被害の少ない区間をあみだ状に組み合わせて優先啓開路線・区間「優先啓開ルート」として決定し、上下線1車線づつを緊急に確保する道路啓開の作戦のことをいいます。

・この作戦により、道路啓開を実施するにあたり、決定した優先啓開ルートに人員、資機材を集中的に投入することで、都心部までのルートを切り開く方針としています。



・地震発生当初の72時間は、救命・救助活動において極めて重要な時間帯であることを踏まえ、発災後72時間の重要性を踏まえ、発災後48時間を目標としています。

災害時の道路啓開

平成26年11月に改正された災害対策基本法では、大規模な災害発生時において道路管理者による放置車両・立ち往生車両等の移動に関する規定が盛り込まれました。

これを踏まえ、ジャッキ等による車両移動に関する訓練を実施し、啓開作業の迅速化を図ります。

災害を想定した実働訓練の実施

大規模地震及び大雪等の災害時に備えて、道路啓開作業時に支障となる放置車両移動訓練を協力会社等と実施しております。

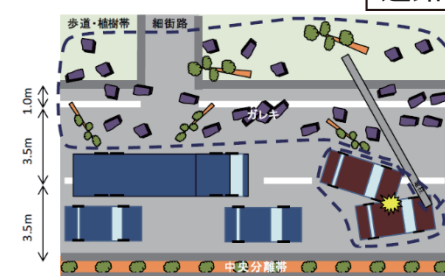


フォークリフト(アタッチメント付)による放置車両移動訓練

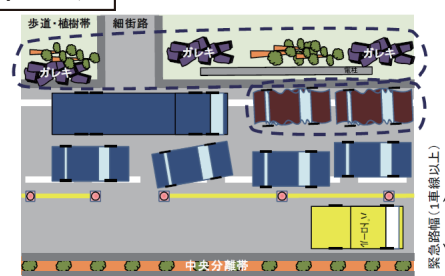


牽引ロープによる放置車両移動訓練

道路啓開イメージ



道路啓開前



道路啓開後

(※)道路啓開とは、緊急車両等の通行のため、早急に最低限の瓦礫処理を行い、簡易な段差修正等により救援ルートを開けることをいいます。



ホイールジャッキによる放置車両移動訓練